

記者発表資料

「R2国道14号亀戸小松川立体東小松川地区共同溝接続他工事」において、「見積活用方式」「間接工事費実績変更方式」を試行し、「難工事指定」「余裕期間制度」を採用します。

工事発注において、予定価格超過や入札参加者がいないことなどを理由として、入札のとりやめや不調が予測される工事について不調不落対策を試行しております。

今回発注する「R2国道14号亀戸小松川立体東小松川地区共同溝接続他工事」については、標準的な積算と実勢価格に乖離が生じることが予想されることから、以下①及び②を試行し、③を採用します。また、受注者の円滑な工事体制の確保を図るため、④を採用します。

①「見積活用方式」

本工事は、市街地であり現道交通及び沿道店舗等の出入りを確保しながら狭隘な作業ヤード内での施工となるため、作業効率が低下することが懸念されます。

このため、入札者から見積の提出を求め、その価格の妥当性を検証のうえ、予定価格に反映する「見積活用方式」を試行します。見積を求める工種は、標準的な積算と乖離が予想される工種より選定しています。

②「間接工事費実績変更方式」

本工事は、運搬費・安全費において、標準的な積算と実勢価格に乖離が生じることが予想されるためその妥当性を確認のうえ実績により共通仮設費（率分）を変更する「間接工事費実績変更方式」を試行します。

③「難工事指定」

本工事は、工事を適切に完成させた場合、その後の発注工事における総合評価項目「難工事施工実績評価対象工事（試行）」を加点対象とする「難工事指定」を採用します。

④「余裕期間制度」

契約期間内であるが、工期外であるため、受注者は監理技術者等の配置が不要であり、工事に着手してはならない期間のことであります。

工事着手以外の工事のための準備は、受注者の裁量で行うことができるため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる制度です。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所

電話 047-362-4111（代表）

副所長 ますだ よしとも 増田 善智 工務課長 いとう ひとし 伊藤 仁

《工事概要》

(1) 工事名：R2国道14号亀戸小松川立体東小松川地区共同溝接続他工事

(2) 工事場所：自) 東京都江戸川区松島^{えどがわく まつしま}1丁目

至) 東京都江戸川区中央^{ちゅうおう}1丁目

(3) 工期：工事の始期から240日間（工事着手期限 令和3年4月30日）

(4) 入札方式：一般競争入札総合評価落札方式（施工能力評価型Ⅱ型）

(5) 工事種別：一般土木工事C+B

(6) 工事内容（概要）：

共同溝（東小松川地区）

仮設工 1式（路面覆工 315m² 土留・仮締切工（鋼矢板） 293枚）

開削土工 1式（掘削工 1,000m³ 埋戻し工 530m³）

地盤改良工 1式（高圧噴射攪拌 8本、薬液注入 24本）

現場打構築工 1式（現場打躯体工 220m³ カラー接手工 1式

歩床工 1式、防水工 720m²）

舗装工 1式（アスファルト舗装工 75m² 排水性舗装工 230m²）

道路改良（松島地区）

場所打ち擁壁工（逆T型（h=5.6m） 2箇所

プレキャスト擁壁工（逆L型（h=1.0～3.3m） 38m

排水構造物工 1式

排水構造物撤去工 1式

歩道舗装工 800m²

工事用道路工 1式

《見積活用方式》

○見積の提出を求める工種

- ・共同溝（東小松川地区）の直接工事費のうち、「現場打躯体工」
- ・道路改良（松島地区）の直接工事費の「擁壁工」

○見積の提出を求める理由

共同溝（東小松川地区）の施工箇所は、国道の交差点部であり交通量も多い箇所です。

また、道路改良（松島地区）の施工箇所は、供用中の国道14号と親水公園に挟まれた狭隘な箇所であり、沿道状況は住宅、事業所等が連坦している箇所です。

施工にあたっては狭隘な作業ヤード内での施工とならざるをえず、作業効率の低下に伴い、標準的な積算と実勢価格に乖離が生じると考えられるため、入札者から見積の提出を求め、その価格の妥当性を検証の上、予定価格に反映する「見積活用方式」を試行します。

《間接工事費実績変更方式》

○実績により変更を行う工種

- ・共通仮設費（率分）のうち、「安全費」及び「運搬費」

○実績により変更を行う理由

本工事箇所は、交通量が多い交差点部の施工であり沿道全域に店舗や住宅等が連坦している箇所です。そのため、現道交通、沿道店舗等の出入り、及び歩行者の安全を確保しながら施工しなければならず、交通規制帯をこまめに分割して施工しなければならないことから、「安全費」について標準歩掛と乖離が想定されます。

また、沿道全域に店舗・住宅等が連坦することから、施工箇所周辺に資機材置き場の確保が困難であり、その都度資機材の搬入が必要となるため、「運搬費」において標準積算と乖離が想定されます。以上から、間接工事費実績変更方式の対象項目として「安全費」「運搬費」を対象とします。

《難工事指定》

本工事は、交通量が多い現道上での夜間作業、限られた狭隘な作業ヤード内での施工になることから厳しい安全管理が必要であるため、「難工事指定」を採用します。
「難工事指定」された工事は、完成時に70点以上の工事成績評定を通知された場合、今後発注される「難工事施工実績評価対象工事（試行）」の総合評価の評価項目において加点対象となります。

《余裕期間制度（任意着手方式）》

本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した工事着手期限（令和3年4月30日）までの間で、受注者が工事の始期を任意に設定することができます。

なお、工事の始期までの余裕期間内は、監理技術者等の配置が不要となります。

《スケジュール》

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ○入札公示、入札説明書、見積依頼書 交付 | : 令和3年2月10日（水） |
| ○競争参加資格確認申請書、資料、見積書の提出期限 | : 令和3年2月26日（金） |
| ○入札書・工事費内訳書 提出期限 | : 令和3年3月18日（木） |
| ○開札日 | : 令和3年3月23日（火） |